

飼料用米を組み合わせた水稲単作による高収益稲作経営 ～複式簿記による経営管理で着実に規模を拡大～

株式会社サニーファーム小関
代表取締役 小関 健登（山辺町）

1 受賞者の概要

地域の信頼を得て、農地を集積。現在約30haの水田で水稲を専作し、主食用米、加工用米、飼料用米、輸出用米を生産している。水稲専作によるスケールメリットで、低コスト化を実現している。

後継者ととともに事業計画を作成し、法人を設立。更なる規模拡大に向け、経営基盤を固めている。



2 特色ある活動

(1) 複式簿記記帳に基づく経営改善

親元就農後9年目に複式簿記記帳を開始するとともに、部門別収益性に着目し、複合部門を再編し、水稲+酪農の営農から水稲+酪農+野菜、水稲+野菜+果樹、水稲+果樹の複合経営を経て、水稲単一経営に至った。この間、複式簿記に基づく適切な資金繰りの下で設備投資、規模拡大を行ってきた。

(2) 高付加価値米の生産と有利販売

土づくりにこだわり、特別栽培米の栽培をはじめ、慣行栽培でも有機質肥料を使用し、極力農薬を使用しない米づくりを行っている。米は、代表者自身が理事事務局を務める農事組合法人山辺アグリFFを通して卸業者や小売業者に直接販売するほか、自社のウェブサイトでは消費者向け直接販売を拡充し、収益性を高めている。

(3) 飼料用米の作付けと町内での耕畜連携

山辺町農業再生協議会飼料用米推進部会の飼料用米生産部会代表代理を務めるとともに、自ら作付面積を拡大し、町内の飼料用米作付面積の約6分の1に当たる4.68haを作付けしている(令和元年)。この飼料用米は町内の養豚業者で給与され、地域ブランド豚が生産されている。ここで製造される堆肥を飼料用米作付ほ場に散布しており、地域内循環型農業の一翼を担っている。

(4) 経営の安定的発展に向けた法人化

平成30年度、後継者が「やまがた農業経営塾」での学びを通して、経営ビジョンを親子で共有しながら経営計画を作成するとともに、常雇いの福利厚生充実を図るため、一戸一法人として株式会社を設立した。法人化後、更に常雇いを1人増やすほか、規模拡大に対応した設備投資を進めている。

3 今後の発展方向

消費者への直接販売を増やすため、規模拡大を進める中で、ほ場データを蓄積し、1筆当たりの収穫量を均一化することで単位収量の増加を図っていく。

また、計画的な機械・施設の更新・増備、新規雇用や人材育成により、経営の安定性を確保するとともに、栽培管理技術及び経営管理のノウハウを伝え、円滑な経営移譲を目指す。